



心一つに、地域の想いも
響きにのせて。

Cradle
高校生編集部が行く
スゴハイ 14
SUGOI high school students in Shonai
Supported by
庄内広域行政組合、山形県庄内総合支庁



取 材 テ ー マ

想い奏で 響かせ合う 高校生

大好きな音楽を通じて、
校内外の仲間たちや
地域の人々との交流を楽しむ
高校生たちを紹介します。

鶴岡東高校吹奏楽部

東日本学校吹奏楽大会銀賞、全日本マーチングコンテスト東北大会銀賞、日本学校合奏コンクール全国大会グランドコンテスト金賞。昨年度収めた輝かしい成績を超えるべく、日々熱心に練習に取り組む鶴岡東高校吹奏楽部に伺った。練習場所に入ると、真っ先に目に飛び込んで来たのが、壁に貼ら

れた「元氣よく」「朗らかに」などの言葉。それらはすべて、曲のイメージを書き出したものだという。

「美しく演奏するために、曲に対するイメージを共有し一つにする」ことを大切にしています。総勢33名の部員をまとめあげる、部長の林下さんは言う。「大きなコンクールの前には、ステージから見た会場の写真を拡大して、本番の視界を体感しながら練習しています」と副部長の渡会さん。自分た



(左から)副部長の渡会裕利香さん、部長の林下萌さん。



回を重ねるたびに、音が揃い響きが豊かになっていく。



マーチングバンドとして参加している天神祭(上)と大山犬祭り(下)。
写真提供: 鶴岡東高校

『がんばれー』とか『また聴きにくるよー』とか声をかけてくださって、コンクールに向けて気を引き締め直す機会にもなっています」と林下さんは言う。

マーチングバンドとしてパレードに参加し、明るい音でハレの日を盛り上げる。その他にも、さまざまなイベントへの出演や老人ホームへの訪問演奏など、地元の方々に演奏する機会は月に2回ほどあるそうだ。コンクールとの最大の違いは、お客さんとの距離が近いことだという。「あたたかく見守ってくださいているのが感じられる距離なので、緊張せず思い切り楽しんで演奏ができるんです」と渡会さん。

「老人ホームで、おじいちゃんおばあちゃんが口ずさんでくれたり、楽しんで聴いてくれるのが嬉しいです。また、みなさん



会場の写真は、できるだけ本番に近い視界を再現するためここまで拡大される。
取材: 鶴岡北高校新聞部

今年の目標は、10月に行われる東日本学校吹奏楽大会で、昨年以上回る金賞を獲得すること。また、昨年が続いて11月のグランドコンテストで金賞を獲得することだという。普段の練習で、イメージを共有しながら心一つにして曲に磨きをかけ、地域での演奏活動で、老若男女たくさんのお客さんに音楽を届ける。その積み重ねの先に、大きな喜びと達成感が必ずや待っているだろう。

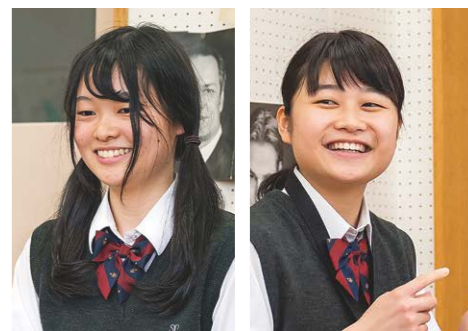
酒田西高校音楽部

県内では珍しい弦楽班を含む3つの班からなる、酒田西高校音楽部。三班三様に、演奏だけでなく音楽を通じたつながりを楽しんでいるという。

1番の大手帯は、総勢30名の吹奏楽班。小中学校からの経験者も多く、夏の全日本吹奏楽コンクールで東北大会出場を目指している。しかし、経験者が多いことは必ずしもプラスに働くとは限らないようだ。「編成上、経験してきた楽器が担当できなかったり、中学校までの練習方法がバラバラで、練習のやり方で議論になったりすることもあります」と部長としての



個人やパートでの練習の後、合奏を行う吹奏楽班。
取材：酒田東高校文芸部



(左から)弦楽班部長の石川夏愛さんと、吹奏楽班部長の岩崎萌衣さん。

大変さを語る岩崎さん。「それでも、みんなが笑顔でいい演奏ができているのを見ると、苦勞も吹き飛ばすほど嬉しいですね」。

次にメンバーが多いのは、16名の弦楽班。こちらは、高校で初めて弦楽器に触れる人がほとんどだというが、地元酒田フィルハーモ



高校からはじめたとは思えない、美しい音色を奏でる弦楽班。

ニー管弦楽団の方に指導を仰ぎながら、日々楽しく活動している。「合奏のときに、個人やパートでの練習では気がつかなかった、全体の中での自分の役割が見えてくる瞬間がおもしろい」と部長の石川さんは言う。コンクールには出場していないが、光陵高校との合同演奏会や県内の他校と合同で参加する全国高等学校総合文化祭など、演奏機会も増えてきているようだ。今年8月に山梨で行われる総文祭には、5名の2年生が参加する予定だという。「なかなかない機会なので、積極的に取り組んでほしいし、さまざまな演奏を聴いて自分たちの演奏に活かしてほしいです」と後輩たちへの想いを語ってくれた。



今年から、伴奏曲にも挑戦している合唱班。

少人数ながらも、今年は4名の1年生が加わり曲数を一気に増やして活動中なのが合唱班。少し前までは、指導者不在で人数も少なかったためコンクールには出場していなかったが、近年少しずつ出場機会が増えてきた。本番の経験がまだあまりなく、表情がたたく

なってしまうことが課題だが、その克服のためにもさまざまな場で演奏することを心がけている。5月には、弦楽班と合同で特別支援学校に訪問し演奏した。「事前に職員の方から『聴き方が独特だけど大丈夫だから』と聞いてはいたんですが、実際ステージ



特別支援学校での合唱班の演奏。
写真提供：酒田西高校

に向かって走ってくる生徒さんいたり、少しびっくりする場面もありました。でも、弦楽班と一緒に盛り上げあったりして、生徒さんも職員の方も手拍子しながら楽しんでもらっていたので、とても嬉しかったです」と語る白崎部長。音を楽しむこと。音楽という字の通り、なによりそれが大切だと改めて感じる機会になった。



合唱班部長の白崎志織さん。

編集後記

初めて他校の部活動取材して、練習方法や地域行事での活動など、貴重な話を聞くことができました。自分と同じ高校生がいろいろな場面で活躍していることを知り、刺激になりました。また、インタビューの難しさを知り、内容や聞き方などを学ぶことができたので、今後の活動に活かしていきたいです。(ひより・鶴北)

今回は、酒田西高校の音楽部に取材をし、さまざまな課題を乗り越えるため工夫をしながら一所懸命に取り組む姿に刺激を受けました。また、学校の内外でさまざまな連携を取り、互いに刺激し合い、高め合っているのいい関係だと感じました。(ゆう・酒東)

編集部員&特ダネ まだまだ募集中!

「スゴハイ」の企画制作をやりたい高校生、「こんなスゴい高校生知ってる」「私、スゴいんです」などスゴい高校生の情報は随時募集中です。お気軽にご連絡ください。

ご応募・お問い合わせ先

Cradle事務局
✉info@cradle-ds.jp

編集・文=Cradle高校生編集部、工藤 拓也
写真=間 真由美
協力=鶴岡東高等学校、酒田西高等学校
鶴岡北高等学校、酒田東高等学校